

PROS Language Center

PROS Phonics (プロスフォニックス)ご紹介

PLC プロスランゲージセンター

何故フォニックス？

フォニックスとは？

大阪市は英語教育の目標として、これまでの「会話重視」にとどまらず、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能をバランスよく伸ばすとしていますが、その中でも、「読む」力を育てるための第一歩が「フォニックス」です。

日本の中学校ではアルファベットを「A(エイ)、B(ビー)、C(シー)」と教えますが、英語圏の学校では「a(ア)、b(ブ)、c(ク)」と教えます。アルファベットにはそれぞれ文字読み(エイ)と音読み(ア)があり、音読みをつなげてひとつの単語を読むのがフォニックス読みです。

フォニックスは英語圏で一般的に行われている読み方の指導法で、読み方のルールをマスターすれば初めて見た単語でも「読む」ことができます。逆に、つづりが分からない単語でも、発音をきくだけでつづりを予想できるようになります。**特に身体を使ったフォニックスは幼稚園で最も効果を上げている指導法のひとつです。**

何故プロスフォニックス？

通常のフォニックスとプロスフォニックスの違い

「Do the Action! (アクションしてごらん!)」

プロスフォニックスはフォニックスを子どもたちに楽しく覚えてもらうための指導法です。

ひとつひとつのアルファベットの「音読み」に、食べ物の絵とニックネームを関連させ、さらにアクションを加えることで、子どもたちは「目」「耳」「口」に「体感覚」を加え、楽しみながら、フォニックス読みを体得していきます。

「音読み」を忘れてもアクションをすることで、子どもたちの口からするするとアルファベットの音が出てくる様子は、まるで魔法のようです。

例えば「a」というアルファベットを [æ] と発音することを子どもたちに教えるステップは次のようになります。

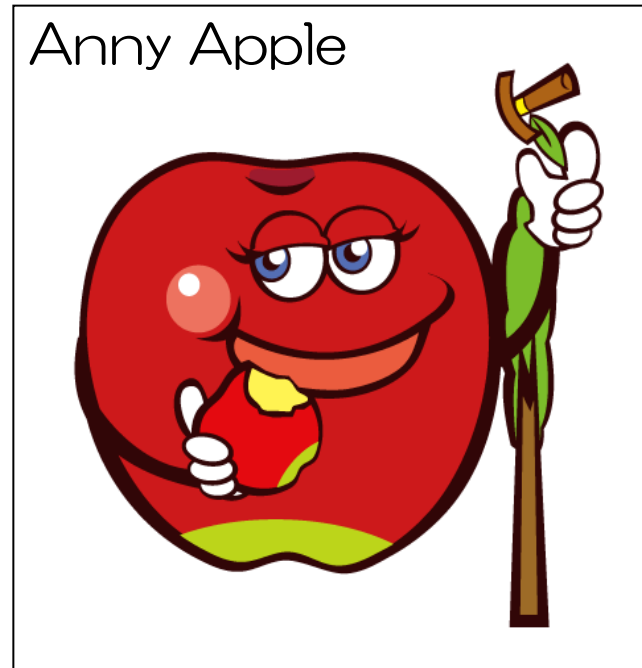
→STEP1

何故プロスフォニックス？

通常のフォニックスとプロスフォニックスの違い

STEP 1

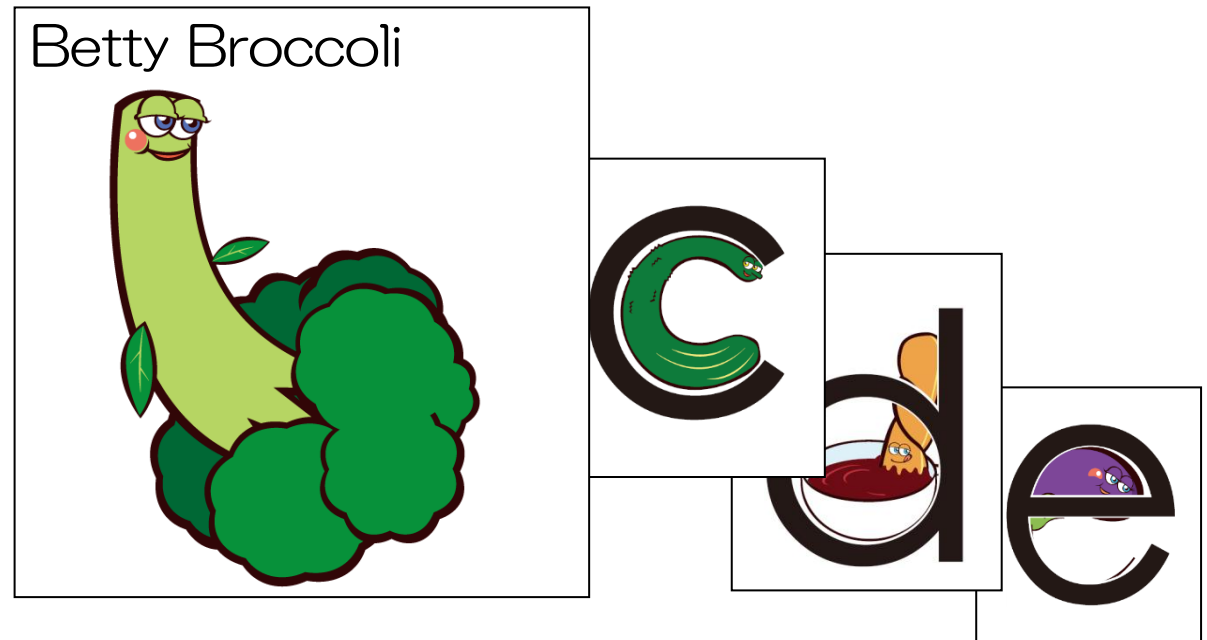
まず「apple(りんご)」の絵を見せます。「このリンゴはAnny(アニー)というニックネームで、赤くて、丸くて、体にとってもいいんですよ。」と語りかけます。そして、「Anny(アニー)」を食べるアクションをしながら[æ]と発音します。この時点では、まだ子どもたちにアルファベットは見せません。



何故プロスフォニックス？

通常のフォニックスとプロスフォニックスの違い

これを26個のアルファベットすべてについて繰り返します。「broccoli(ブロッコリー)はBetty(ベティー)というニックネームで、緑色で、ビタミンCがいっぱい。」と語りかけ、「Betty(ベティー)」の茎の部分と丸い部分を引き離すアクションをしながら、[b(ブ)]と発音します。



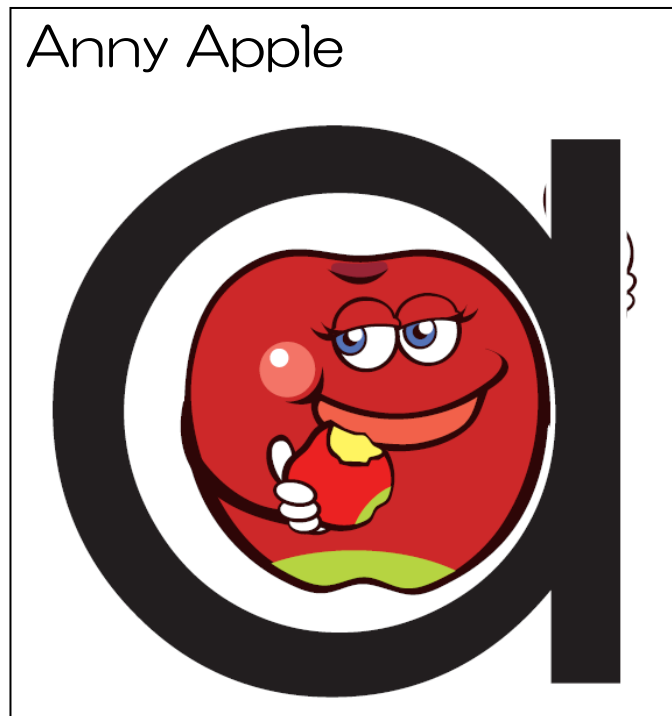
26枚の絵を見終わり、ニックネームと「音読み」とアクションを覚えたころには、お腹がいっぱいで、すごく元気になった気分になります。 →STEP2

何故プロスフォニックス？

通常のフォニックスとプロスフォニックスの違い

STEP2

子どもたちが26個の野菜(果物)すべてのニックネームと「音読み」とアクションを十分に体得したところで、「apple(リンゴ)」の絵に、透明の「a」というシートを重ねます。

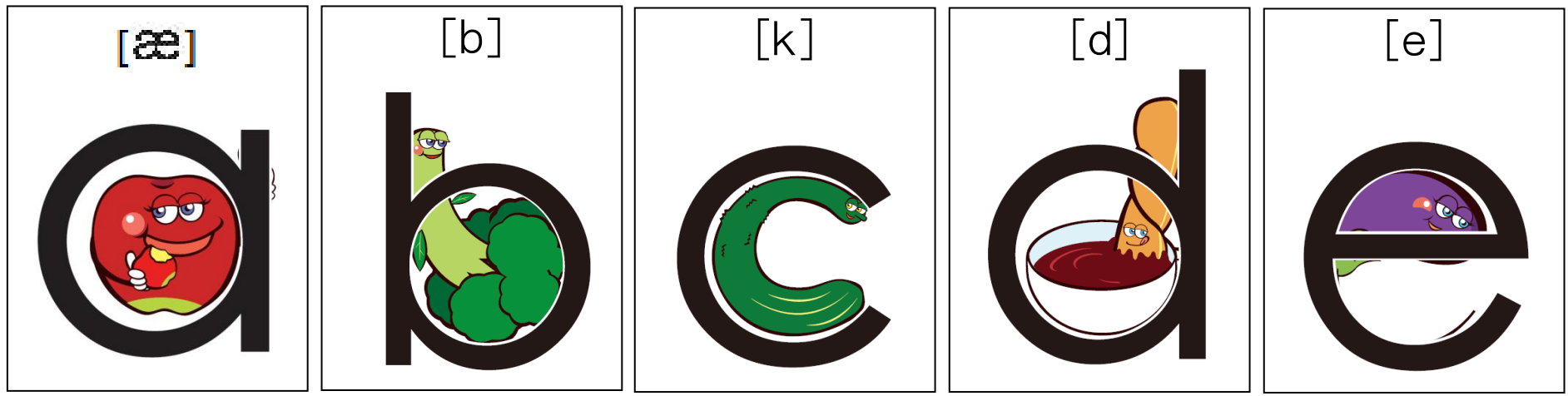


ここで初めて、子どもたちは「アルファベット」と対面します。

何故プロスフォニックス？

通常フォニックスとプロスフォニックスの違い

お分かりのように、野菜(果物)たちは、初めからアルファベットの小文字を連想させる形に描かれています。英語の文章は95%以上が小文字でできているからです。子どもたちは目と耳と口と体のすべてを動員して、アルファベットの「形」と「音」を体に染み込ませていきます。



しばらくは、「絵」と「アルファベット」を重ねたままで発音を繰り返します。

→STEP3

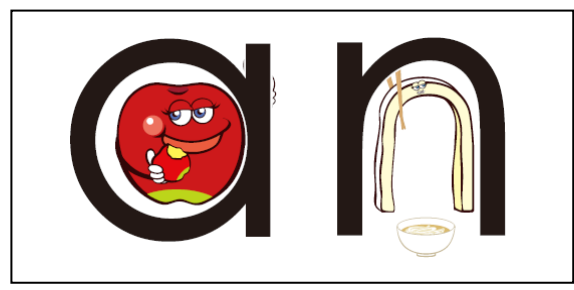
何故プロスフォニックス？

通常のフォニックスとプロスフォニックスの違い

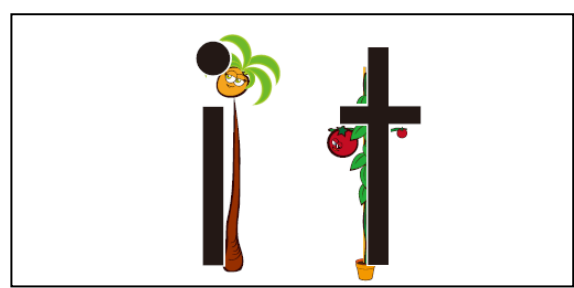
STEP3

つぎに、「絵」と「アルファベット」の重なったカードを使って、2文字読みに挑戦です。
ここがフォニックスの一つ目の山。

[æ] と [n] で [æ n]



[i] と [t] で 「it」という様に、2つつなげて読むことを学びます。



→STEP4

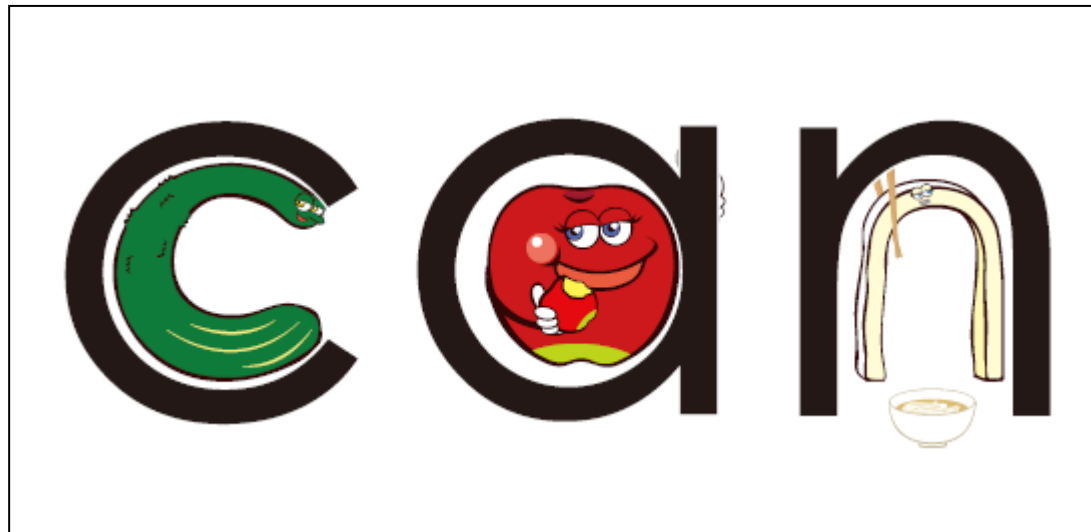
何故プロスフォニックス？

通常のフォニックスとプロスフォニックスの違い

STEP4

次は3文字読みです。

[k] と [æ] と [n] で [kæ n]



→STEP5

何故プロスフォニックス？

通常のフォニックスとプロスフォニックスの違い

STEP5

しばらくすると、子どもたちは、「絵」に重なっている「アルファベット」を「文字」として認識するようになります。そうすると「絵」をはずしても「アルファベット」だけのカードが読めるようになるのです。

can [k æ n]

子どもたちが読みにくそうにしていたら、プロスフォニックスの魔法の言葉を投げかけます。

“Do the Action ! (アクションしてごらん !)”

アルファベットの形と一緒に体にしみこんだアクションをすると、ふしぎなことに子どもたちの口から、正しい「音」がするすると出てくるではありませんか。子どもたちは、目と耳と口と体全体でアルファベットを覚えたので、「口」が忘れていたら、「体」が思い出させてくれるのです。

プロスフォニックスからリーディングへ

フォニックスからリーディングにつながるプログラムを準備しておくことは、グローバル化する社会を生きる子どもたちを育成するためには必要不可欠です。

● 正課

英会話クラスでは、子どもたちはリズムで単語や表現を覚え、コミュニケーションの基礎を習得していきます。フォニックスと組み合わせることで、子どもたちは身体全体を使ってアルファベットを正確な音で読む力を習得します。幼稚園の3年間で自分の力で3文字単語を読める指導を行い、リーディングの基礎力を養います。

● 課外英語教室

課外ではネイティブ講師と英語で会話を楽しみ、自分の力で本を読む力を養いながら英語への興味を一層引き出します。1人1人講師にほめてもらい、指導を受けながら、言葉に対する自信と感性を養います。また、英語の本を読める楽しみをリーディングにつなげるための細やかな指導を行います。